

国語科学習指導案

日 時 令和3年10月5日（火）5校時
学 級 3学年
 （男子1名、女子4名 計5名）
場 所 3年教室
授業者 教 諭 長畑 由美子

- 1 単元名 小屋瀬特選和歌集をつくろう～表現の仕方を評価して～
学習材名 「君待つと一万葉・古今・新古今」（光村図書3年）

2 単元について

（1）教材について（教材観）

本単元は、学習指導要領第3学年「C読むこと」の内容「ウ 表現の仕方について評価すること」を指導内容とし、言語活動例イ「詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」を通して指導するものである。

本題材「君待つと」は、日本三大和歌集である「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の中から計十一首の和歌が取り上げられている。三大和歌集は、それぞれの時代を代表する歌集であり、幅広い作者が、限られた音数の中に、工夫を凝らした表現で情景や心情を詠みこんでいる。五七五七七の短い音律の中に、豊かなイメージが圧縮して表現されているものであり、表現方法や一つ一つの言葉の持つ意味は大きなものがある。

また、舞台となっている時代の様子や作者の置かれていた状況等を知り、多様な角度から和歌を詠むことで、古の人々の思いを感じながら、古典の世界に親しむことのできる教材である。

（2）生徒について（生徒観）

学習内容を理解しようとする気持ちが強く、真面目に学習に取り組んでいる。また、協力してペアやグループ学習も行っている。

一方、人前で自分の意見を話したり、人の意見を聞いて質問や意見を言ったりすることに対しては、消極的な傾向が見られる。また、内容理解に自信を持ってない生徒が多いので、ペアやグループの話し合いを取り入れ、考えや意見の確認の場を設けてきた。自分の感じたことや考えたことを話す場や聞き合う場を多く経験することで、話すことや聞くことによって多様な見方ができることなど、得ることが大きいことを実感させていきたい。

古典の学習に関しては、一年次には「いろは歌」「竹取物語」「故事成語」を、二年次には、「枕草子」「平家物語」「徒然草」「漢詩」と、古文・漢文の基礎を学んできた。生徒たちは、古人のものの見方や感じ方には興味をもっている様子が見られた。その反面、「古文特有の言葉や主語の省略に慣れない」「意味がわかりにくい」と苦手意識をもっている。

(3) 指導の構想（指導観）

本題材には、和歌が数多く紹介されているので、その中から心に響いた和歌を選ぶという形を取り、主体的な学習を促していく。初めにペアとグループで選ぶ2回の交流会を通して、表現の仕方を評価する方法を学び、その力をつける。その後、個人で表現の仕方を評価し、鑑賞文を書く。和歌には、作者の置かれている状況や歴史的背景が色濃く表れているので、作者やその時代について調べる学習を取り入れる。

和歌に詠まれている情景や心情を読み取り、それらを限られた音数の中で表現するための表現の仕方を、言葉のリズムや表現の技法、吟味された言葉の使い方等の観点で分析的に読み、どのような効果を上げているか、どのような意味をもつかなどを説明することを言語活動とする。

ペアやグループでの話し合いを通して、自分で気がつかなかった多様なものの見方や考え方を知り、和歌の味わい方の幅を広げていきたい。

3 単元目標

(1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

〔知識及び技能〕 (3) ア

(2) 表現の仕方について評価することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕 Cウ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう、人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 (3)ア	①「読むこと」において、表現の仕方について評価している。 (Cウ)	①粘り強く、表現の仕方について評価し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。

5 単元の指導・評価計画 (全7時間 本時6/7)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○歴史的仮名遣いやリズムに注意しながら音読する。 ○現代語訳や語注と対応させて和歌のおおまかな意味をつかむ。 ○ペアとグループで鑑賞する和歌を二首決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」を読み、表現の仕方を評価するという学習の見通しをもたせる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認しながら音読させる。 ・個人で一首決めて持ち寄り、鑑賞する二首を決める。 	[知識・技能] <u>音読・ノートの記述</u> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いやリズムに注意しながら読んでいる。 ・歴史的背景や作者の状況等について理解している。
2	○「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴をまとめる。 ○和歌の表現方法についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用させながら、ポイントを絞って特徴を押さえさせる。 	
3	○1回目に交流する和歌について、個人で次の内容を調べたり考えたりする。 ・作者やその置かれていた状況等を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料やインターネットを活用させる。 ・現代語訳や語注を参考にしながら想像させ、短い言葉でまとめさせる。 ・表現技法や言葉の選び方等の観点を示す。効 	[思考・判断・表現] <u>ホワイトボードとノートの記述</u> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方がどのような効果を上げているか考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> 和歌に詠まれている情景や心情を考える。 和歌の表現の仕方を評価する。 	果を考える際に比較するようにさせる。	
4	○心に響いた和歌一首目の交流を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを使用して、発表させる。 共感、納得、質問等の反応ができるようにさせる。 ペアとグループの交流のまとめを報告させる。 	<p>[思考・判断・表現]</p> <p><u>ノートの記述・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方がどのような効果を持っているか根拠に基づいて判断している。
5	○2回目に交流する和歌について、個人で次の内容を調べたり考えたりする。 <ul style="list-style-type: none"> 作者やその置かれていた状況等を調べる。 和歌に詠まれている情景や心情を考える。 和歌の表現の仕方を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の学習を生かすようにさせる。 	<p>[思考・判断・表現]</p> <p><u>ホワイトボードとノートの記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方がどのような効果を持っているか考えている。
6 【本時】	○心に響いた和歌二首目の交流を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを使用して、発表させる。 共感、納得、質問等の反応ができるようにさせる。 ペアとグループの交流のまとめを報告させる。 	<p>[思考・判断・表現]</p> <p><u>ノートの記述・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方がどのような効果を持っているか根拠に基づいて判断している。

7	<p>○個人で選んだ心に響いた和歌について、情景や心情を考え、表現の仕方を評価し、鑑賞文にまとめる。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • これまでの学習を生かして取り組ませる。 • これまで記録してきた振り返りを活用させる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] <u>観察・振り返り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 粘り強く表現の仕方を評価し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。
---	--	--	---

6 本時の指導

(1) 本時の目標

【思考力・判断力・表現力等】

• 表現の仕方がどのような効果を上げているか根拠に基づいて判断することができる。

(2) 評価規準

観点	評価規準
知識・技能	
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> • 表現の仕方がどのような効果を上げているか根拠に基づいて判断している。
主体的に取り組む態度	

(3) 指導の構想（校内研究との関わり）

ア 題材として提示されている和歌等の中から心に響いた和歌を選ばせる。

イ 主体的な学習が行われるように、課題設定はなるべく生徒の言葉で行うようにさせる。

ウ 個人の考えを持たせる。そして、ペアやグループでの発表を自分の考えと比べながら聞き、そこから生まれた気づきや深まりを意識させる。

エ 「振り返り」の時間を十分に確保し、自分の考えの深まりや気づきを整理させる。また、振り返りの視点を示し、次につながるものにさせていく。

(4) 展開

段階	学習活動・学習内容	活動の支援◎ 教材教具○	研究に関わる手 立て■ 評価□【方法】
導入 (5分)	1 単元の課題、これまでの学習の過程を再確認する。 2 課題を確認する。 表現の仕方を評価して、小屋瀬特選和歌を決めよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート等で確認させる。 ・本時の学習課題を把握させ、本時の学習に対する意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■身に付けたい力や単元の意図に込められた願いに触れる。 ■生徒の言葉で学習課題を考えさせる。
展開 (35分)	3 ペアとグループに分かれて、話し合う。 ①前半の交流を行い、情景や心情を確認する。(7分) ア 作者の説明と状況理解 イ 情景 ウ 作者の心情 ②それぞれが考えた表現の仕方を評価した内容を交流し、まとめる。(15分) エ 表現の仕方を評価した内容 *~~~という表現の仕方は、~~~する上で~~~な効果を上げている。そのことは、~~~な意味をもつと考えられる。 *別の和歌との比較 4 ペアとグループの交流の報告をする。想像した情景や心情と表現の仕方を評価した内容を発表する。 *認定するかどうかをペアとグループで話し合う。(1分) *認定の可否とその理由を発表する。(計2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめホワイトボードにまとめさせ、それを使って説明させる。 ・意見交流の様子が見えるように、色の違うペンで記入する。 ・共通点や相違点を整理させる。 ・根拠を明確にして意見を述べさせる。 ・交流で深まった点に絞って発表させる。 *認定の判断基準 ①想像した情景や心情が妥当であるか。 ②表現の仕方を評価しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の考えと比べながら発表を聞き、その内容への意見や感想が大切なことを確認させる。 □表現の仕方がどのような効果を上げているか根拠に基づいて判断している。 ・自分の考えと比較しながら聞いている。 ・根拠を基に質問や意見を考えている。 ・自分の考えを広げることができている。(思考・判断・表現)【ノートの記述・観察】
終末 (10分)	5 本時の学習を振り返る。 ・わかったこと、自分の取り組みを振り返る。 6 次時の学習内容の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒に発表させる。 ・本時の話し合いを振り返り、良かった点を伝え、生徒の意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ノートに記入させる。(振り返り)

